

## 一人ひとりの自立をめざした学級づくり

### I 主題設定の理由

社会生活の激しい変化の中で、子どもの生活様式や生活の意識も大きく変わってきた。多くの問題を抱える現代社会において人々は、自己の利害や損得に関わるものには敏感に反応するが、人とのつながり、思いやりや親切の心となると希薄になってきているように感じる。現代社会においては、競争を乗り切り、自分さえよければよいといった風潮があり、他者を省みない傾向がある。そうした中で、その社会的問題や矛盾が集積する学校においても、「学級崩壊」「いじめ」「不登校」など様々な問題が起きている。

学校での「学び」の基本は、学級集団にある。一人ひとりの子どもが集団の一員として互いに認められ、楽しく生活し、学ぶための空間が確保できるような学級集団づくりが求められる。そしてさらに、自分たちの思いによって自治的な活動を創り出し、そこから学びあえる学習集団にまで高めていく必要があると考える。

そこで、本部会では、一人ひとりが認められる学級づくりをめざして、「一人ひとりの子どもが居心地の良い集団づくり」、「人間関係の絆を強め、人とのつきあい方を学んでいく場面づくり」について研究を進めてきた。今年度も、「子ども自らがよりよい学級集団を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるための手だて」について研究していくこととし、本主題を設定した。

### II 研究の内容

#### 1 研究の方法

(1) 各個人の取り組みや実践を発表し、研究討議をする。

〈レポートの例〉

特別活動の充実、学級会の進め方、班長指導、朝の会・帰りの会の進め方、係活動、構成的グループエンカウンター、課題解決の手だてなど学年の発達段階や各クラスの実態に応じた「自立をめざした学級づくりの手だて」について。

(2) 講師を招き、「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」についての学習会を行う。

(3) 授業研究を通して「子ども自らがよりよい学級集団を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるための手だて」について学習を深める。

#### 2 研究の具体的内容

##### (1) 第1回研究会

今年度の研究の方向性の確認・・・研究テーマ・研究方法について

##### (2) 第2回研究会

年間計画についての検討・確認

##### (3) 第3回研究会 実践発表Ⅰ

・「その子の心を知り、担任としてできることはなにか」(3年)

・「2年国語『スイミー』の授業実践から」(2年)

##### (4) 第4回研究会 実践発表Ⅱ

・「一人ひとりの自立をめざした学級づくり～認め合い、支え合い、一つになれるクラス～」(5年)

・「よりよい学級を自分たちで」(4年)

##### (5) 第5回研究会 夏季学習会

・「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」

～具体的な事例をもとに、教師の支援のあり方・保護者への対応・リーダーの育成を考える～ 講師：依田勝芳先生(田富南小学校校長)

- ・授業案検討会「自分たちのがんばりをつたえよう」（3年）
- (6) 第6回研究会 授業研究①
  - ・学級活動
  - 「自分たちのがんばりをつたえよう～新聞をつくって～」(3年)
- (7) 第7回研究会 実践発表Ⅲ
  - ・「話し合いタイム」(2年)「こんな友だちが大切」(5年)
  - ・「一人ひとりが自立した学級づくりをめざして」(3年)
  - ・「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」(1年)
- (8) 第8回研究会 実践発表Ⅳ
  - ・「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」(1年)
  - ・「一人ひとりが自立した学級づくりをめざして」(5年)
- (9) 第9回研究会 授業研究②
  - ・学級活動
  - 『後屋敷小・当たり前10箇条』を考えよう(6年)
- (10) 第10回研究会 実践発表Ⅴ
  - ・「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」(1年)
  - ・「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」(1年)

### Ⅲ 成果と課題

#### 1 成果

- ・「子ども自らがよりよい学級集団を築こうとする自主的・実践的な態度を育てたい」そんな思いをもち、各学校・各学級で、児童の実際に合う指導が行われ、その実践を発表し合う中で研究が進められた。授業実践や実践発表は、児童の実態にもとづいた、工夫された取り組みを学ぶ機会となり、大変参考になった。
- ・一人ひとりの実践をみんなで考え合うことで、自分の学級の実践に対するたくさんのヒントが見つかった。他の先生方の実践に触れることは、とても勉強になりよかった。各校の実践レポートは、日常の様々な生活場面で活用できるものがあり、自校の実践に取り入れることができた。討議の中で、学級経営で悩んでいることなどが気軽に相談でき、とても有意義な時間をもつことができた。低学年・高学年に分かれて話し合ったことも、話し合いが深まりよかった。
- ・夏季学習会では、依田校長先生に、学級活動のあり方や学校でのトラブル・事故への対応について具体的な話をしていただき、有り難かった。「児童会のリーダー研修」「学校でのトラブルや事故の対応について」を学び、事実に基づいた講義で大変有意義だった。特に、連絡帳の返答のポイントは、細かい分析を基にした、明日からでも役立つものだった。自治的に子どもが動けるようにするための具体的な方法や、モンスターペアレントなど、今、学校でかかえている具体的な事例について、どのように対処していけばよいかなどの話が聞けて、大変ためになった。

#### 2 課題

- ・各学級での取り組みの実践報告があり、参考になる点が多いが、共通した取り組みの視点とか重点などが設定されるとより効果的ではないかと思った。研究内容・方法については、例えば「話し合い活動」に視点をあて、伝え合う・お互いに意見を高め合う話し合いのあり方等について研究するやり方もある。
- ・自治的というと、話し合い活動・グループエンカウンター・集会活動など、ほとんど学級活動の実践となってしまう。教科・道徳・総合的な学習の時間でも、自治的な活動が仕組めるのではないか。様々な場面からのアプローチをしたい。
- ・毎年、課題にされていることでもあるが、授業者への負担が大きいように感じる。2回とも授業案検討の機会がつかれるとよい。

(部長 金井 京子)